

備蓄米 県内でも行列



政府備蓄米を手にする購入者＝7日午前8時54分、多治見市若松町、バロー多治見店撮影・坂井明香



政府備蓄米を購入するための整理券を求めて並ぶ人々。開店1時間半前には約250人が列を作った＝7日午前7時47分、同

販売開始

整理券求め午前4時半から

随意契約で売り渡された政府備蓄米の店頭販売が7日、県内でも始まった。スーパーのバロー多治見店（多治見市）では、早朝から行列ができ、午前8時30分から配布した550袋分の整理券は30分ほどで配り終えた。コメの店頭価格は5キロで4千円を超える状況が続いており、当面は備蓄米の購入希望者が殺到するとみられる。早速食べた購入者からは「もっちりしていいお米だった」などの感想が聞かれた。

（コメ問題取材班）

「もっちり」「いつもと変わらぬ味」

午前4時30分ごろに一番乗りした無職市川恒友さん（75）＝多治見市＝は、持参した折りたたみ式の椅子に座って待った。「年金暮らしで、高いコメはなかなか買えずに困っていた」と話し、「テレビを見ると他の地域は早い時間から並んでいた。尻が痛いが一番が取れて良かった」と笑顔を見せた。

店は開店を30分早く、午前9時にオープン。備蓄米を購入した会社員小木曾一博さん（45）＝同市＝は、病気で塩分制限している関係で炭水化物はコメがメインになるといい、「1週間前に9500円でコメを買った。高値が続くと家庭の経済事情が厳しくなる。政府にはしっかりしてほしい」と注文した。

行列の中には若者の姿も。1人暮らしをする学生

の渡辺大樹さん（21）＝同市＝は「政府備蓄米」と書いたシールだけが貼られた無地の袋を手にし「自炊するのに必要」、会社員古田雄太さん（25）＝同市＝も「2千円だったので、生活のた

めに買うしかないと思った」と求めた。

備蓄米に対しては味に不安を抱える人も少なくないが、実際に食べた購入者の評判はおおむね良かった。普段より少し多めに水を入れて炊いたという一番乗りの市川さんは「変な匂いもなく、いつもと変わらない味がした」と話した。ラップに包んで近所にも配り、喜んでもらったという。夕食で子ども3人と食べた無職岩本由香里さん（55）＝同市＝も「粒は大きく、つやもとってもいい」と評価し、「粘り気があると聞いているが、もっちりしていいお米だった」と語った。

バロー取締役の竹之内栄生食品部長（60）は「お客さまの関心の高さを感じる。都市部まで行けない人も多いので、なるべく地方で販売できるよう頑張りたい」と話した。